

平成29年度第2回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校および社会教育関係者、家庭向上向上関係者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べるができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 平成30年2月22日（木） 14:25～16:20（14:00～展覧会観覧）
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員11名中8名出席 美術館職員8名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 大石志乃婦、小谷要次（会長）、関口千代絵、長澤美由紀、林邦子（副会長）、
星秀隆、宮崎彩、山本進（50音順敬称略）
- 5 取 材 北海道通信社
- 6 議 事 (1) 平成29年度事業実施状況について
(2) 平成30年度事業実施計画について
(3) その他（「アートギャラリー北海道」の検討状況、これまでの協議会提言に
基づく旭川美術館の取組状況）

◎議事録（抄）

議事に入る前に、展覧会観覧、館長挨拶、復帰職員紹介、その後、会長の司会進行により、議事に入る。

<議事（1）（2）についての意見等>

* 事務局より平成29年度の展覧会等の事業実施状況、平成30年度の事業実施計画を説明（展覧会、収集予定（受贈）作品については映像でも紹介）。

【平成29年度事業実施状況】

● 学校関係団体の利用に関わって、幼稚園、保育園の団体利用はどのようになっていますか。

現在、開催されている展覧会には遊びのコーナーがあって、小中学生向きかもしれないが、小さなお子さんでも楽しめ、幼児にもとても良い機会になると思いますが、幼稚園等への利用の働きかけはしていますか。

今年度が難しいようであれば、来年度以降の展覧会でも取り組んでみてはどうか。

【事務局回答】⇒ 今年度の幼稚園、保育園の団体利用は今のところありませんが、28年度は2団体です。

利用の働きかけについては、市町村教育委員会を通して行っているものがありますが、直接の働きかけは、今年度、実施しておりません。

幼稚園等においては、年度計画等に基づき運営されていると思いますので、今年度の団体利用は難しい可能性もありますが、今後、働きかけの方法を検討してまいります。

- 体験参加型の展示が増えてきていますが、昨年開催した猫まみれ展では、お客様の猫の写真を飾っていたり、他の展覧会でも、子どもたちがその場で作って飾ったりしているものもあると思うが、提供してもらった写真等は、展覧会后、どのようにしていますか。

【事務局回答】⇒ 猫まみれ展で飾った猫の写真は、お客様が大事にしている猫の写真ですので、全てファイルして保管しています。

見応えのある写真が多く、今後の活用する機会に備え、また、お客様がまた見たいというご要望に応えられるよう一定期間、保管していきます。

展示室の遊びコーナーで、お子様がその場で、マスキングテープや折り紙を切って貼り付けるようなものについては、展覧会終了後、撤去しますが、制作したものをお持ち帰りすることも可能ですし、その場で写真撮影して、記録として持ち帰ることもできるような工夫もしております。

イベント等でお客様から提供を受けるものについては、受付の際、返却しないことへの了解を求めると、あらかじめルールを決めて実施しています。

- 展覧会タイトルからは所蔵品展だと分からないケースがありますが、美術館が価値あるものとして所蔵しているのであれば、所蔵品であることをもう少し強く出してみてもどうか。

1人の作家の作品しか展示していない美術館でも何度も足を運ぶ人もおり、所蔵品が観たいというような展覧会ができればいいのではと思っています。

また、現在、開催されているアートクイズギャラリー展では、クイズ形式で作品が紹介されているが、作家の紹介がもう少し記憶に残るようなものを希望します。

【事務局回答】⇒ 所蔵品は、何度もご覧いただいているお客様もいらっしゃいますので、所蔵品展であっても、これまでお客様が観たことがない切り口で、いかに新鮮に感じて美術館に足を運んでいただけるかを考えることも必要ですが、ご意見のとおりに所蔵品展であることを強く出しながらも、こんな見方ができるのかという展示をすることも非常に大切と考えますので、今後はそのことも含め検討していきます。

また、今回の展覧会では、クイズ形式のパネルを中心とした表示をしておりますが、基本的な作家の解説や情報を分かりやすく表示することで鑑賞がより深まると考えますので、今後、分かりやすい作家の紹介等ができるよう努力していきます。

- これまで所蔵してきた作品が約700点近くあるようですが、一度も展示されていない作品はありますか。

【事務局回答】⇒ 収蔵した作品は、翌年に可能な限り展覧会でお披露目することとしていますので、ほぼ全作品、展示しているものと考えています。

なお、所蔵品による常設展の展示替回数は以前より少なくなってきておりますが、特別展の所蔵品展で彫刻を展示する場合は、同時開催の常設展で絵画の所蔵品展にするなど、バランスを取りながら年間を通じて所蔵品をたくさん観覧していただけるよう心がけています。

【平成30年度事業実施計画】

特になし

<議事(3)についての意見等>

【アートギャラリー北海道の検討状況】

特になし

【これまでの協議会提言に基づく旭川美術館の取組状況】

- これまでの協議会でお話ししてきたことを迅速に対応していただき、ありがたい。

冬季間の展覧会観覧者増加に向けた動態調査に関わって、高齢者層の割合が思っているより少ないので、例えば、平日の高齢者の割引による柔軟な価格設定等で高齢者層をターゲットにして誘客を図っていけば、もう少し観覧者数を伸ばしていけそうな印象を持っています。

高齢者がもっと外に出かけることは健康づくりにつながり、芸術文化に興味を持つ高齢者には生きがいづくりにも役立つと考えており、高齢者が外に出かけることを推奨している立場としては、美術館で平日に誘客を図る取組ができるのであれば、積極的に PR の協力ができると思います。

【事務局回答】⇒ 高齢者向けの割引制度としては、現行、常設展や所蔵品展で65歳以上は観覧料を免除することが道で規定されており、それ以外の割引適用をすることは困難となっております。

平日の高齢者層の誘客に結びつく取組は、現在、できておらず、難しい面もありますが、観覧者の増加に向けて、平日に高齢者層が興味を持って足を運んでいただけるような仕掛け、広報も含めた取組を今後、検討していく必要があると考えております。

【その他意見等】

- 旭川では、周辺町村と DMO（観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人）を立ち上げて観光関係の取組を強めようとしており、可能であれば、旭川美術館もその中に入って、例えば、旭川市内文化施設等と共通パスポートを作るなどの誘客に向けた取組を期待している。
- 旭川美術館が行っている参加型の展覧会等は非常に良い取組だと感じていて、できれば色々な展覧会の中で、観覧者が参加できるような催しがあれば、美術をもっと身近に感じると思うので、今後ともそのような取組を期待している。
- 美術館の事情もよく分かり、道の予算があまりにも少なく、美術館に要求するのは気の毒だと思っているところもあり、協議会委員としても、美術館の取組がもっと広がっていくような PR や観覧者が増えるような声かけをしていきたい。
- 今年度の展覧会も非常に質が高く、遠方から来た友人も満足していたので、今後ともこのような展覧会を継続して開催して、たくさんの方に観覧してもらいたい。

- 美術館の裏側の努力を知って大変勉強になった。

普段、作品に出会える機会がないところに住んでいるので、美術館は自分にとって非常にありがたい、今後とも旭川美術館に来て鑑賞したい。

- 都会ではちょっとした企画でもすぐに人が集まると思うが、それに比べ、旭川美術館では職員や喫茶コーナーや売店を運営しているボランティアの皆さんは良く頑張っていると思うし、その取組には感謝している。

- 展覧会を観覧したくても仕事で来られないこともあり、興味がない一般の方はなかなか足が向かない場所だと感じており、一般の方が時間を作って、美術館に足を運ぶための働きかけも必要だと感じているので、自分なりにどのようなことができるのか考えてみたい。

- 美術館のことを色々を知ることができ、これからも美術館に寄ってみようという気持ちが高まった。

- 子どもたちは、展覧会に来て心で感じた時、すばらしい作品に触れてみたいという素朴な気持ちがあるのかなと思っていて、作品に触れられない時でも、その素材に触れたり、椅子の作品に座ることができるのは貴重なことだと思います。

作品にむやみに触るのは難しいと思うが、そっと触れることで感じて、やがて作品の前でたたくことで感じる心も育っていくと思います。

今後とも、直接、触れながら作品を感じる機会を増やしていただくことで、子どもたちが美術館に足を運ぶ機会が増え、そのことをきっかけとして子どもたちが育った後も、美術館に足を運ぶ機会が増えていくことになればうれしいです。